

後のない新潟のまちづくり
(長岡市の“アオーレ”完成を見て)

4月に長岡市で駅前開発により「アオーレ」が完成した。総工費130億円といわれているが、これは長岡市が負担する額で、全体では500億円のかかったとも聞く。長岡駅から屋根付のペデストリアンデッキ（空中回廊）で直接連結している。旧厚生年金会館とその周囲にあった長岡城址あとの公園をつぶして、一端郊外に出た市役所を戻して併設し、集客施設としてのホールとアリーナを主体とした施設を長岡駅横の市の中心街に建設したのである。この計画には当初市民から反対があった。にも拘らず首長の英断で計画が進んだ。

新潟での公共施設が、県庁、病院を始め郊外に移設された結果、中心街の衰退に拍車を掛けたとも言われている。ゆえに新潟市内でも市役所を元の立地に戻せという議論もあるなかで、長岡はそれを実現させた。政治の決断である。それに加えてユニークともいえるのは、この戻した市役所の中に職員食堂をつくらなかったことにある。要は職員が市役所の外に出て近辺の食堂で昼食をとれ、ということで、もう既に近辺に食堂が新たに増えているそう。そして食堂だけでなく、衰退の一途をたどっていた中心街に活気が戻りつつあるという。もっとも長岡の試みはこの「アオーレ」の建設だけではない。少し前にこの中心街の一角に出来たマンションの2、3階を利用した子育て施設もそうである。この施設も子育て世代が対象とはいえ、集客施設を中心街に設置したことになる。新潟の大和にあって、現在NEXT21に移動した子供預かり施設と規模も考え方も格段に違っている。要は、長岡市の中心街活性化の取り組みは半端ではないのである。

お隣の富山県、富山市でも大胆な試みがなされている。富山市ではまちづくりの方向性として明確にコンパクトシティを打ち出し、その象徴としてのLRTの導入、あるいは中心街の再開発など大胆に進めている。富山市も長岡市も全国から注目を集めているのである。

さて、肝心の我が新潟市であるが、市長は3月の公共交通のセミナーで、これまでのまちづくりは「成り行きまかせ」であったと反省の弁を述べた。そんななか新潟でBRT導入計画が進んでいる、がしかし、新潟駅の高架化の遅れとあいまって中途半端なのである。中途半端ではすまない、あるいは反省だけではすまない時代が来ている。新潟市でも市民に明快にまちづくりの方向を示したうえで、指導者の大胆かつ早急な決断が求められている。